



後期始業式校長式辞

津島市立神守中学校長 小林秋良

平成30年度後期をむかえました。

1学年158名、2学年156名、3学年190名、全校504名での後期の開始です。後期は、1年生が名古屋分散学習、2年生が職場体験学習、3年生が自己の進路選択と、キャリア教育が軸となり、学年の締めくくりに向けて活動が展開していきます。そんな大切な新たなスタートとなる今日の始業式では、次のような内容を話しました。

~~~~~

<一部抜粋>

今日から後期が始まりました。

先週の終業式で、「3連休で後期の目標をしっかりと立てましょう。」と話しました。さて、目標は定まっていますか。1年の折り返しとなる今日、ここで、前期始業式で話した“自分を成長させる今年度の合い言葉”を確認しましょう。

まず、㊦「最高・最善を目指す。」でしたね。現状の最高のものを目指す・最善な方法で取り組むことを念頭に、後期も、今自分が考えうる最高到達点を設定して取り組んでください。

次に、㊧「失敗をおそれない。」ことでしたね。失敗をおそれず、思い切って取り組みましょう。きっと、よい結果を導くことができるでしょう。

その次に、㊨「好き・嫌いを言わない。」ことでしたね。取り組む前から「これは好き・これは嫌い」と決めつけて取り組まないことでした。どんなことでも、精一杯取り組めば、苦手だと思っていたことでも、大きく伸びます。

その次に、㊩「背筋をのばす。」ことでしたね。物事にまっすぐに取り組むということと、実際に背筋をのばして脳みそによい信号を送ることでした。これまで以上に、実践してほしいと思います。

最後に、㊟「先言後礼」でしたね。相手と目を合わせて挨拶をすることがしっかりできるようになってきました。挨拶の声の大きさや挨拶の元気さという観点ではなく、“挨拶の仕方”という観点で、海部地区1位、いや愛知県1位、いや日本1を目指して励行していきましょう。



この5つが今年度の自分を成長させる合い言葉でした。この5つは、皆さん一人一人が実践することで、より良い結果が導き出せる、自分を成長させられるというものです。後期は、学校祭の取り組みを経験した皆さんだからこそ、よく理解できることを1つ足して6つにしたいと思います。㊟㊟㊟㊟㊟とききましたから、このさ行で足りなかった㊟で始まる言葉です。

それは、㊟「相乗効果のある集団」です。これは集団が同じ方向を向いて取り組む時・同じ目標達成のために努力する時、一人だけの取り組みの時より良い結果が得られるということです。これが集団の相乗効果です。以前、朝礼で「入試は、個人戦か？団体戦か？」と話したことがあります。覚えていますか。この㊟「相乗効果のある集団」は、まさしくそのことです。まず学級、そして学年という集団で、プラス方向の良い雰囲気を作り、より高め合うようにしていってほしいと思います。

~~~~~

今日の始業式では、私は真っ先に体育館に行きました。そして、1年生の入場→2年生の入場→3年生の入場と、それぞれの姿を見ていました。履いてきたスリッパを体育館シューズに履き替える時、だれ一人“ドスン”と体育館シューズを床に放ることなく、体育館シューズを静かに床に置き、無言で履き替えていました。これが神守中の姿です。私が愛する子ども達の姿です。

前期の各活動を経験した子ども達は、それぞれ大きく成長しました。この成長に後期の成長が足されたならば…。そう考えると、この先が楽しみでたまりません。